

創業140周年を迎えた甘藷問屋川小商店

一般財団法人いも類振興会 理事長

かりや 狩谷 あきお 昭男

1876年創業の老舗甘藷問屋である(株)川小商店は、2016年で創業140周年を迎えた。これを祝い、7月12日に東京の浅草ビューホテルで、創業140周年記念祝賀会が、約100名の出席者をえて挙行された。

五代目の齊藤浩一社長から、開会挨拶において、“おかげさまで、140年を迎えることができました”との謝辞があった。続いて、来賓4名（狩谷昭男、郷原茂樹、貝塚照雄、岩井菊之の各氏）から、祝辞が述べられ、川小商店140年の社史にまつわる思い出やエピソードが披露された。

鏡割りの酒で、井上浩サツマイモ資料館元・館長の発声により乾杯し、懇談に移った。この間、1983年の川小商店本社ビル新築落成のほか、テレビで紹介された川小商店に関連する甘藷問屋業務、大学いも、焼きいも、スイーツなどのビデオが放映された。これらの放映によっても川小商店が、甘藷の歴史・食文化について多くの情報を発信し、サツマイモの振興に大きな貢献をされてきたことが再認識できた。

開宴の中で三代目齊藤興平社長（現・会長）から、近況報告のほか、関係者に対する謝意の言葉があった。結びに、齊藤浩一社長の長男である齊藤浩史取締役直販部長から、創業150周年記念祝賀会も開催したいとの力強い予告で閉会となった。

筆者は2012年に、著書『サツマイモの近代現代史ー甘藷問屋川小商店136年の軌跡ー』を、財団法人いも類振興会から出版した。川小商店140年の社史は、とりもなおさずわが国サツマイモの生きた近現代史にほかならない。創業140年間を支えてきた経営の理念・哲学は、初代齊藤小平次氏、二代目齊藤直衛氏が大切にされたサツマイモ農家の「再生産価格の維持」という共生の経営理念のほか、三代目齊藤興平氏が好む「小欲知足」、すなわち欲張らずにたるを知るの経営哲学であり、それらが今日まで受け継がれてきたと言えよう。

創業140年を機に、創業200年の長寿企業をめざして一層繁栄され、サツマイモ産業の発展に貢献いただくことを願っている。



鏡割りで創業140周年を祝う。中央が川小商店の齊藤浩一社長